

医者も知らない平穩死



連載40

〈長尾和宏〉長尾クリニ
ック院長。日本尊厳死協
会副理事長。著書に『平
穩死』10の条件」など。

平穩死を考える時、薬を処方した時のことで「転倒したらどうする。すぐに薬局の薬剤師かーは、元気な時から考えておかなくてはならないことのひとつ。」

もし骨折しても、大きいくずれていなければ部位によっては自然にくっつくことがあります。「入院↓寝たきり↓認知症が進む↓食べられなくなり胃ろう造設↓病院で最期を迎える」といった展開にならないための工夫が必要です。

さて、この転倒に関することで、先日ドキッとしました出来事がありました。

水虫薬と眠剤

爪水虫の薬は塗り薬ではなく飲み薬。半減期が30時間なので、1日以上効いています。急いで家族に連絡を取ります。爪水虫の薬には、眠剤を分解する酵素を邪魔する成分があります。つまり、爪水虫の薬と眠剤を一緒に飲むと、眠剤が予想以上に長く効き、翌朝も知っておきたいものになります。高齢者には爪水虫の患者さんが多いですし、併用している注意の組み合わせは院内処方では見逃されがちです。高齢者の場合、何が怖いといえますか。と、転倒のリスクが高

80代の患者さんに爪水虫の薬と眠剤の2種類の薬を処方した時、患者さんが転倒した。爪水虫の薬と眠剤を一緒に飲むと、眠剤が予想以上に長く効き、翌朝も知っておきたいものになります。高齢者には爪水虫の患者さんが多いですし、併用している注意の組み合わせは院内処方では見逃されがちです。高齢者の場合、何が怖いとい

り、爪水虫の薬と眠剤を一緒に飲むと、眠剤が予想以上に長く効き、翌朝も知っておきたいものになります。高齢者には爪水虫の患者さんが多いですし、併用している注意の組み合わせは院内処方では見逃されがちです。高齢者の場合、何が怖いとい



元気にどこへでも行けるように

自分の失敗から得た要
注意エピソードでした。